

令和8年度 第1回 部活動の地域展開に関する協議会 意見交換概要

1 日 時 令和8年7月8日（水）14時30分～16時15分

2 場 所 大津サテライトプラザ

3 次 第

① 開 会

② 報告事項

事務局より報告

（1）「滋賀県における中学校部活動改革および地域クラブ活動の推進計画」の策定について

（2）滋賀県内各市町の地域展開・地域連携状況の報告

③ 意見交換：滋賀県における部活動改革 課題と今後の本県の実践について

【主な質問及び回答】

（1）地域という言葉の範囲について

意見：地域が疲弊しているのに、地域と一緒にやっていくというのは机上の発想ではないか。同じ市内でも過疎地域は特に厳しい状況。

回答：少子化が進むなか、学校だけでは活動を維持できない。地域という言葉は学校も含んでいる。学校を含めた地域の全体で子どもたちの活動・体験の場を守っていきたいと考えている。

（2）何を地域に引き継いでいくのか。

意見：「部活動という手法」をどう引き継いでいくのかという話に聞こえる。単に部活動に関わる様々な要素を地域に出すのは非常に難しいのではないかな。これからの子どもたちに何が必要なのか、そのためにどういう形が必要なのかを考える必要がある。何を地域に移行していくのか明確にする議論をしないといけないのではないかな。

回答：当初、本取組は「地域移行」という名称だった。学校でやっていることを単に地域に出すのは難しい。学校にしかできないこと、地域でできることを明確化するために地域展開という名称に変更となった。これまで学校では教育的意義の継承や部活動を通じて生徒指導を行っていたが地域展開に取り組むにあたって今後も検討する必要がある。

（3）中体連の方針について。

意見：中体連のあり方も問われる。10年後には、中体連そのものが存在していない可能性だってある。中体連はどのように考えておられるのか。

回答：日本中体連において公平な競技運営ができるようにルールを整備していつている。これまで中学生が運動をするのであれば部活動がほとんどすべてだったが、現代はそれが多様化している。日本中体連も、どのチームを全中大会に参加させるべきか、苦慮している。今後の先行きは不透明だが、認定地域クラブの参加は認められる方向である。

(3) 県の取組方針について。

意見：県の方針として部活動は維持させる方針なのか、全県的に地域クラブを立ち上げていくのか。学校活動と地域クラブは異なるので、それを混同して地域で考えましようというのは難しい。市町の方針に任せるのは負担が重すぎる。県としての方針をハッキリしておく必要があるのではないか。地域の実情が全く異なる中、責任の所在の曖昧化や、関係者の不安を招きかねない。

回答：県の方針として、改革前期の3年間は人づくりの期間とした。今、県で一律の展開は難しいという判断。部活動を残すのかと聞かれると、明言はできないが、現在の国のガイドラインを読むと平日の部活動は続くと考えられる。

(4) 地域の実情に応じた支援について

意見：できれば部活動があればいいと考えている。ただ、子どもの数がとても減少するなか、やってほしい部活動が物理的にできなくなる。子どもたちは部活動をしたいと思っているが、自分がしたいことがその学校ではできなくなっている。職員会議で活動時間を減らすと言っても、教員は誰も反対せず、兼職兼業のアンケートをとっても希望する教員は全体の三分の一。どうしたら色々ニーズに応えていけるのか。子どもたちの活動場所が確保できないまま働き方改革を進めているのが非常に心苦しい。県においても地域のそれぞれに応じたバックアップをしてほしいと考える。

(5) 行政からの支援について

意見：指導員と簡単に言うが、謝金も安い。人件費や運営費を確保しないと進まない。県や市町には予算を投じて事務局機能を整えてほしい。

回答：お金を出せばそれで解決できるとも考えていない。社会的な責務や生きがいので成り立っている部分はあると思う。そこにフォーカスしつつ、不足する部分について行政として支援するのが重要かと思う。

(6) 人材確保計画について

意見：令和8年から実行期間となっているが、人材確保・育成の実施計画はあるのか。

回答：推進計画にいつまでに何人という記述はないが、単純な試算では2,300名（運

動部)の指導者人材が必要。県では地域の指導者として300人強が部活動に関わっている。市町としては指導者確保にマンパワーを避けないという実情もあるため、県が人材バンクを設置し指導者確保を支援して資格取得を促進しているところ。

(7)柔軟な勤務体制について

意見：例えば16時45分以降を地域クラブ活動にしようとするればお金が必要だが、市の職員が10時から16時までは市役所で勤務し、18時まで部活動指導するなどの仕組みを作ることも考えられる。